

「教材の基本的な方向性について（案）」に対する意見

私は、この「薬害を学び再発を防止するための教育」副読本作成にあたって、薬の歴史、効用、副作用、そして薬の適正使用、などを、本筋ではないものに、あまり時間をかけるのは、如何なものかと、憂慮しています。

薬害は、薬学の問題でも薬の問題でも無いと思うのです。

薬害は、「薬害によってもたらされた人命被害の回復と再発防止」という社会問題です。

まずは、この事を、中学生に伝えることが一番の課題だと思います。

そのうえで、薬害の発生、拡大の仕組みやその回復の経過における今の社会システムとあるべき社会システムを考えさせる事この事が必要不可欠だと思います。

専門家の委員の方におかれましては、薬害の教育の前提として薬の歴史、効用、副作用をきちんと伝えるという意見が、ありますが、薬害は薬学・薬の問題、あるいはその派生課題という、とらえ方には非常に問題があると思います。

そもそも、薬害は国が解決すべき社会問題であるからこそ中学生教材として取り上げる価値がある。

その主従を、取り違えないように、注意してゆく必要があると思います。